


基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (3) 特色・魅力ある私立高校づくりを支援します

【基本的方向】

- ① 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施します。あわせて、効果検証を行い、今後の制度検討を行います。
- ② 私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう、私学教育の振興を図るとともに、公私がより共通の土俵で競い合える環境づくりに努めます。

【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
①	私立高校生等に対する授業料等の支援 (私立高等学校等生徒授業料支援補助金) <参考資料 P180> (私立高校生等奨学給付金事業) <参考資料 P180>	授業料無償化制度を実施した。 平成 26 年度以降入学生を対象に、市町村民税所得割額が非課税である世帯に対して、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給した。
②	優れた取組みを実践する学校に対する支援 (学校経営推進事業)  <参考資料 P180>	優れた取組みを実践する学校に対する支援として、大阪の教育課題として府が指定する項目に対し、PDCA サイクルによる高い効果が見込まれる事業計画を提案する私立高校 1 校に支援した。
	生徒・保護者の学校選択肢の一層の充実 <参考資料 P180>	全日制高等学校を 1 校設置認可するとともに、既設の全日制高等学校に新たな専門学科 1 学科の設置を認可した。

## 【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績値 (計画策定時)	H29 年度実績値	点検結果	
○指標 16 私立高校に対する生徒・保護者の満足度	向上させる	72.7%	72.9% [H28 年度実績 73.1%]	○	平成 29 年度実績は、計画策定時の実績を 0.2 ポイント上回り、目標に達した。
○指標 17 私立高校の教員が信頼できると答えた生徒の割合	向上させる	67.0%	66.3% [H28 年度実績 68.7%]	△	平成 29 年度実績は、計画策定時の実績を 0.7 ポイント下回り、目標には達しなかった。
○指標 18 私立高校全日制課程の生徒の中退率	全国水準をめざす	1.5% (全国：1.5%)	H28 年度実績 1.0% (全国：1.4%) [H27 年度実績 1.1% (全国：1.4%)] ※H29 年度実績は H30 年度秋以降に公表予定	◎ (注)	平成 28 年度実績は、計画策定時の実績より 0.5 ポイント改善し、全国水準を下回った。 ※目標達成状況については、平成 29 年度実績公表時に判明。
○指標 19 私立高校卒業生(全日制)の大学進学率	向上させる	71.9%	H28 年度実績 71.5% [H27 年度実績 72.1%] ※H29 年度実績は H30 年度秋以降に公表予定	△ (注)	平成 28 年度実績は、計画策定時の実績を 0.4 ポイント下回った。 ※目標達成状況については、平成 29 年度実績公表時に判明。
○指標 20 私立高校卒業生の就職率 (就職者の就職希望者に対する割合)	全国水準をめざす	92.1% (全国：93.9%)	91.4% (全国：98.1%) [H28 年度実績 92.4% (全国：97.7%)]	△	平成 29 年度実績は、計画策定時の実績を 0.7 ポイント下回り、全国平均との差は 6.7 ポイントであり、目標には達しなかった。

(注) 目標に対する平成 28 年度実績の進捗状況を記載。

【自己評価】

【基本的方向①】家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施します。あわせて、効果検証を行い、今後の制度検討を行います。

- 私立高校生等の授業料無償化の実施により、制度創設前と比べ私立高校に進学する割合が増加するなど、無償化制度は、経済的理由を問わない自由な学校選択に寄与している。また、制度の検証のため、公私の流動化の状況の分析に努めるとともに、私立高校の保護者に対し、学校選択に関する満足度調査を実施した。私立高校への満足度を示す指標については計画策定時の実績を上回り、7割を超える生徒・保護者が学校生活に満足している。
- 平成31年度以降の新生入生に対する授業料支援については、きめ細かく対応するという考え方のもと、こども2人以上の多子世帯に配慮した支援制度の拡充、また、標準授業料については2017年度府内私立高等学校の授業料の平均である60万円へ変更し、2019年度から2023年度までの入学生に対する授業料無償化制度の内容を決定した。

【基本的方向②】私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう、私学教育の振興を図るとともに、公私がより共通の土俵で競い合える環境づくりに努めます。

- 私立高校の振興を図るために、経常費補助金を交付するとともに、優れた取組みを実践する私立高校1校を支援した。
- 中退率については、授業料支援やカウンセラー配置に対する補助金の交付等の取組みの結果、目標としていた全国水準を下回った。引き続き、カウンセラー配置に対する補助金交付等、中退防止に資する取組みを行っていく。
- 私立高校卒業者の就職率については、平成28年度実績を1.0ポイント下回った。引き続き、キャリア教育の充実に向けた支援を通じて改善するよう努めていく。

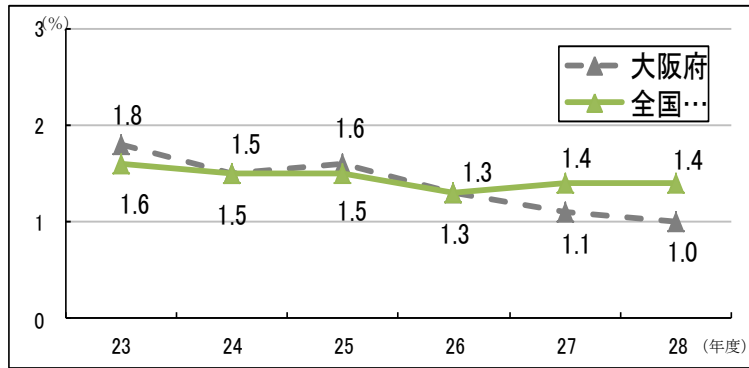
【評価審議会における審議結果】

【基本的方向①について】

- ・授業料の無償化を実施することで、公私あわせて、経済的な理由によらない就学機会をしっかりと保障して、高等学校の教育の質を保障していこうとしていることは素晴らしい取組みである。「私立高校卒業者の就職率（就職者の就職希望者に対する割合）（指標20）」について、全国水準に届かないというところで、難しさがあると思うが、自分のキャリアに意欲的になれるような、キャリア教育が大切になってくるのではないか。また、採用する側の意見として、基本的なマナーが身につけていない子どもが増えているという声も聞くので、基本的な指導を改めてほしい。（一部、基本方針2（1）の再掲）

(参考)

◆指標18 私立高校全日制課程の生徒の中退率



※府教育庁調べ